

| 学生海外調査研究                           |                                  |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 中国人若年層の性別役割分業意識及びワークライフバランスの実態について |                                  |
| 氏名                                 | 田 嬢                              |
|                                    | ジェンダー学際研究専攻                      |
| 期間                                 | 2016 年 12 月 9 日～2016 年 12 月 21 日 |
| 場所                                 | 中国（北京・済南・濰坊）                     |
| 施設                                 | 会社・ご自宅・喫茶室                       |

## 内容報告

### 1. 海外調査研究の背景・目的

女性の社会進出を推進するため、日本政府は「男女雇用機会均等法」を改正、「男女共同参画社会基本法」を公布・施行するなど、男女平等の実現に向けて社会システムの変更や、様々な法律や制度を実施し、社会における男女平等を図っている。一方、世界経済フォーラム（World Economic Forum pp.8-9）「The Global Gender Gap Report 2012」各国における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数（Gender Gap Index : GGI）の調査では日本は 135 カ国の中、101 位である。

小林（2013）の『「結婚」や「家事分担」に関する男女の意識の違い』によれば、実際に男性が一週間に家事する時間は 5 時間未満のほか、0 時間の人が 15%に達している。これに対し、女性が一週間に家事をする時間は 24 時間であり、男性より断然に長いと言えるだろう。この現実を見れば、家事の主な担い手は女性であることが分る。したがって、「夫は外、妻は内」の伝統的男女役割意識がまだ根強く残っていることがわかる。

中国の研究では、中国人女性の仕事意識に関する研究において「中国女性が家を養うため労働と仕事をする意識を持ち、この家を養うための高い責任感を持つ」とのような中国人女性の役割分業意識が明らかにされている。また、仕事をして家計に貢献することは中国人女性にとって、自尊心と自立に繋ぐことであり、経済的独立することによって、中国人女性が自尊心と安全間を感じられる」と陳（2003）が示されている。また、「第二期中国妇女社会地位抽样调查主要数据报告」（2001）によると、中国の女性の就職の主な動機は家庭を養うため、経済的独立、自分の生活を充実することなどである。つまり、中国人女性にとって、仕事をする事、経済的自立は既に自尊心、自己実現などと繋がり、家計に貢献することも自分の責任だと思われる。

白水（2004）は中国の良妻賢母思想は日本と違い、中国では女性に社会的役割と家庭的役割の両方の責任を求められて、この意識は近代から現代までに至り、中国女性に影響し続けている。中国では男性が家事を負担する時間が日本より多い<sup>1</sup>が中国の女性の二重役割問題が昔から存在し、現在でもその強い影響力が依然存在していることがわかる。さらに、競争社会の中で、厳しい就職環境で性別に問わず就職難などの問題が浮上する中国、20 世紀 30 年代のように、「女性は家庭に帰れ」などの声が現れ、社会環境はますます女性の社会進出に好ましくない状況に落ちつつある。

中国は 30 年に渡る一人っ子政策を実施する中、人口を減らす目的を達成しているが、例えば、現在定年の年齢を高く定められていることにより、一人っ子夫婦が四人の高齢者の介護を負担し、子供の教育も負担するなど、多くの家庭の労働力、経済面などに負担をかけ、これから中国社会の中で、立ち向かわないといけない社会問題が次々現われて来るだろう。したがって、女性の社会参加の推進や男性の家庭参加の推進が以上の社会問題に深く関連する。それを問うことは、平等な社会環境を作り、女性の社会進出に関わる重要な研究意義を持っている。

以上の背景から、若者の性別役割分業意識が保守的になりつつあることがわかる。さらに日本と中国の研究でも若者の性別役割分業意識が保守化していると指摘されている（徐 2010, 長尾 2008）。本調査では若者を対象に、中高生時代から出産後までのライフイベントごとに、当人の性別役割分業意識が、いつ、どのような出来事の影響で変化したかについて探っていくこととする。また、若者の仕事、家事、育児におけるワークライフバランスの実態を把握し、困難、葛藤及び当人の対策を探ることを本調査の目的とする。

## 2. 調査とデータの概要

### 2.1 調査の概要

調査対象者が中国人女性であるため、協力者を募集しやすい現地に行く必要がある。なぜ現地で調査を展開する必要性が高いか、その理由として、以下のことが考えられる。まず、より信頼性が高いデータを収集するため、調査協力者が生活している現地で調査を行う必要がある。また、資料収集の面からも、中国における調査の必要性が非常に高いと考える。

前年度（2015 年度）では、既に中国（北京・済南・潍坊）で半構造化インタビューを用いた質的調査を実施した。その際に、性別役割分業意識に影響する要因とライフイベントごとの意識の変化傾向を明らかにした。今回の調査では、男性もインタビュー調査の対象者とした。前回の研究結果を生かし、前回の対象者の配偶者の男性も含め、新たな対象者も増やした。そして、性別役割分業意識の変化と実態を把握すると同時に、夫婦間の役割分業を確認でき、対象者のワークライフバランスの実態も把握できる。以上のことから、若者の就業、育児、ワークライフバランスに関する大きな示唆につながると考える。

### 2.2 調査の実施

海外調査をする前から調査協力者と日程調整や連絡をとり始めた。まず、前回の協力者と連絡し、その配偶者に協力してもらえるかどうかを確認した。北京において、配偶者の都合や、家族の都合により、協力できない方もいた。対象者の人数を確保するため、知人や前回の協力者に新たな対象者を紹介してもらった依頼をした。その結果、北京では女性 2 名、男性 1 名、その内夫婦は 1 組の新たな対象者に協力してもらった。しかし、当人に連絡がつかない方もいたため、前回の協力者に向ける追加調査ができないケースもあった。北京の調査結果は以下にまとめる。

表 1 北京の調査結果

| 2015 年度 |      | 2016 年度 |      |       |      |
|---------|------|---------|------|-------|------|
| 対象者番号   | 調査結果 | 対象者番号   | 調査結果 | 配偶者番号 | 調査結果 |
| A1      | ○    | A1      | ○    | A1H   | ○    |
| A2      | ○    | A2      | ×    | A2H   | ×    |
| A3      | ○    | A3      | ×    | A3H   | ×    |
| A4      | ○    | A4      | ○    | A4H   | ○    |
| A5      | ○    | A5      | ×    | A5H   | ×    |
|         |      | A6      | ○    | A6H   | ○    |
|         |      | A7      | ○    | A7H   | ○    |
| 合計      | 5 名  | 合計      | 4 名  | 合計    | 4 名  |

済南では、前回の協力者との連絡がインタビュー終了後にも続いていたため、前回の協力者のほとんどに今回も協力してもらうことになった。その内の 3 組の夫婦は、どうしても都合が合わなかったため、今回の調査期間中にインタビュー調査ができなかった。この方々に関して、次回中国で調査展開をする際にインタビューを実施することを検討している。また、新たに紹介してもらった夫婦一組がいたため、済南では、協力を承諾済で未実施の対象者を含め、全部で 6 組 12 名となった。済南の調査結果は以下にまとめる（表 2）。

表 2 済南の調査結果

| 2015 年度 |      | 2016 年度 |      |       |      |
|---------|------|---------|------|-------|------|
| 対象者番号   | 調査結果 | 対象者番号   | 調査結果 | 配偶者番号 | 調査結果 |
| B1      | ○    | B1      | ×    | B1H   | ×    |
| B2      | ○    | B2      | ×    | B2H   | ×    |
| B3      | ○    | B3      | ○    | B3H   | ○    |

|    |     |    |        |     |        |
|----|-----|----|--------|-----|--------|
| B4 | ○   | B4 | × 承諾済み | B4H | × 承諾済み |
| B5 | ○   | B5 | ○      | B5H | ○      |
|    |     | B6 | ○      | B6H | ○      |
| 合計 | 5 名 | 合計 | 3 名    | 合計  | 3 名    |

潍坊では、前回の協力者の離婚や配偶者の仕事の都合により、インタビューできなくなった方も中にいた。調査協力者との日程調整は海外現地に到着後にも続いていた。四日間の間に日程を合わせてもらうことが困難であり、さらに日程の変更が激しかったため、どうしても調整できない方もいた。しかし、中国の現地に行く前から知人や前回の協力者にコンタクトを取り、新たな協力者夫婦 3 組 6 名にインタビュー調査ができ、合計夫婦 5 組、12 名の協力者に調査した。潍坊の調査結果を以下にまとめる（表 3）。

表 3 済南の調査結果

| 2015 年度 |      | 2016 年度 |        |       |      |
|---------|------|---------|--------|-------|------|
| 対象者番号   | 調査結果 | 対象者番号   | 調査結果   | 配偶者番号 | 調査結果 |
| C1      | ○    | C1      | ×      | C1H   | ×    |
| C2      | ○    | C2      | ○      | C2H   | ○    |
| C3      | ○    | C3      | × 承諾済み | C3H   | ○    |
| C4      | ○    | C4      | ×      | C4H   | ×    |
| C5      | ○    | C5      | ○      | C5H   | ○    |
|         |      | C6      | ×      | C6H   | ○    |
|         |      | C7      | ○      | C7H   | ○    |
|         |      | C8      | ○      | C8H   | ○    |
|         |      | C9      | ○      | C9H   | ○    |
| 合計      | 5 名  | 合計      | 5 名    | 合計    | 7 名  |

## 2.2 インタビュー調査内容設定

今回の半構造化インタビュー調査は、前回の調査をもとに、新たな問題を組み込んだものである。男性の協力者と女性の協力者に聞く内容はほとんど同じであり、同じことに対する認識や役割分担を確認できるものだと考える。今回の調査に新たに加わった男性のインタビューガイドを中心に、インタビュー調査内容について述べる。

男性用のインタビューガイドは五つ視点から男性の意識を問うた。その内訳は「現在の役割分業意識」、「結婚相手について」、「性別役割分業意識変化の傾向と過程」、「結婚後の役割期待」、「子ども誕生後の役割期待」である。

「現在の役割分業意識」を確認するため、「テレビやドラマなどで『出世よりよい結婚相手』という言葉聞いたことがあると思いますが、これについてどう思いますか」などのような質問をした。

「結婚相手について」では、「あなたが考えている一般的な結婚相手の理想像、及び理想結婚年齢を教えてください」、「あなたの理想像及び理想年齢の形成はどこから受けた影響が大きいですか」の質問で問うた。

「性別役割分業意識変化の傾向と過程」について、中高生時、大学生時、就職活動と就職後の時間列で、協力者の性別役割分業意識を「中学校や高校の時期に考えた女性がやるべきことと男性がやるべきことについて教えてください」、「文系か理系かを選ぶ際に、自分が男性だから文系にもしくは理系にと考えたことがありますか」の質問で確認した。さらに、生活においてどんな人物や出来事が性別役割分業意識に影響をもたらしているかを明らかにするため、「進路選択する際に、誰からアドバイスをもらいましたか、最終的な選択は自分の意思による部分が大きかったですか、それとも他人の意思による部分が大きかったですか」、「就活の過程、その際に遭った困難と対策、努力、得た援助」、「従

業後に社会経験を積むことによって、男性と女性の役割分業についての考えは変化しましたか」などの質問を加えた。

「結婚後の役割期待」について、「あなたの家庭内役割を教えてください。現在の家庭内役割分担の合理性についての評価」、「夫婦の理想の働き方について教えてください」などの質問で、現在の家庭内の役割分担の実際を確認しつつ、協力者の理想像も問うた。

「子ども誕生後の役割期待」の部分では、「あなたが考えている育児に関する家庭内役割の理想像及び現在の実態を教えてください」、「これからの自分の職業キャリアと家事育児のバランスについてどのようにかんがえていますか」などの質問を設定し、現在の状況を問いつつ、これからの期待も含めてインタビューを進めた。

### 3. 今後の課題と予定

まず、今回のインタビュー調査データを整理し、文字化を行う。そして、分析を重ね、国内外の学会にて発表をする予定である。前年度（2015 年度）では本学生派遣プログラムの助成を受け、収集したデータを用い、The 11th Annual Conference of The Asian Studies Association of Hong Kong (ASAHK): Japan, Hong Kong, Asia and Alternative Modernities にて、「Employment Situation and Challenges of Chinese Parenting Mothers」をテーマに、日本家族社会学会第 26 回大会にて、「中国人若年層女性の就職活動における困難と葛藤」をテーマに、口頭発表を行った。また、「21 世紀東アジア社会学 第 8 号」に「中国人女性の性別役割分業意識の変化—若年既婚者へのインタビュー調査から」（単著・査読付き）の論文を掲載した。さらに、『人間文化創成科学論叢』第 19 巻に「乳幼児を持つ有職母親の就業状況と役割葛藤—中国人若年成人女性のインタビュー調査を通して」（単著・査読付き）をテーマにした論文を投稿し、2016 年 12 月に採択された。今回（2016 年度）に再度助成をいただけたことを励みに、日本家族社会学会、日中社会学会で更なる発表や論文の投稿を行う。今回の調査データは前回の調査データの補足であり、発展である。その理由、これらのデータはこれから作成する博士論文の土台になるものであり、自分の研究を進めるにあたって、欠かせない貴重なデータと考える。

今回のインタビュー調査では、何名かの協力者にインタビュー調査の承諾してもらったが、スケジュールが合わなかったため、調査できなかった。今後、再度中国の現地に渡り、承諾をくださった協力者のインタビュー調査を行う予定である。

### 謝辞

この度、お茶の水女子大学文部科学省特別経費（国立大学機能強化分）「グローバル女性リーダー育成カリキュラムに基づく教育実践と新たな女性リーダーシップ論の発信」プロジェクト「学生海外派遣」プログラムに採択をいただき、深く感謝を申し上げます。

本海外調査を遂行するに当たり、ご指導をいただきました指導教員の石井クンツ昌子教授から始め、申請書の作成や調査計画にご指導をいただいた石井クンツ教授研究室の皆さま、また、インタビューをご快諾していただいた協力者の皆様、お茶の水女子大学留学生相談室のチューターの皆様に心より感謝を申し上げます。

### 注

1. 総務省「平成 23 年社会生活基本調査—生活時間に関する結果要約」と、第二期中国妇女社会地位调查课题组(2001)「第二期中国妇女社会地位抽样调查 主要数据报告」(『妇女研究丛书』 Vol.42, No.5) pp.4-12 の男性家事する時間の調査数値より

### 参考文献

- 小林利行 (2013) 「結婚や家事分担に関する男女の意識の違い」(『放送研究と調査』 Vol.4) pp.44-58
- 長尾由希子(2008) 「若年男女における性別役割分業意識の変化とその特徴：高校生のパネル調査から」『東京大学社会科学研究所 パネル調査プロジェクトディスカッションペーパーシリーズ No.12』東京大学社会科学研究所
- 白水紀子 (2004) 「中国における近代家族の形成—女性の民国化と二重役割の歴史」『横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅱ (人文科学)6 号』 pp.135-151
- Ricardo Hausmann, Laura D. Tyson, Saadia Zahidi, “The Global Gender Gap Report2012”. World Economic Forum, 2012
- 陈方 (2003) 『失落与追寻·世纪之交中国妇女价值观的变化』 中国社会科学出版社

第二期中国妇女社会地位调查课题组（2001）「第二期中国妇女社会地位抽样调查 主要数据报告」（『妇女研究丛书』 Vol.42, No.5』） pp.4-12

徐安琪(2010)「家庭性別角色態度：刻板化傾向的经验分析」『妇女研究论丛』98(2):18-28

田 姫

でん げん お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科研究科 ジェンダー学際研究専攻

## 指導教員によるコメント

女性の性別役割分業意識はライフイベントと関連することを前提として、田氏の研究では、中国の若年（20代～30代）女性に注目し、ミクロの視点から、進学、社会進出、結婚、出産などのライフイベントにより性別役割分業意識が変化するかについて検討しています。田氏のこれまでの研究の知見の一つとして、女性の性別役割分業意識は結婚後に保守的になるのではなく、大学を卒業し、就職する際に変化することが明らかになっています。よって、社会進出や働きながらの家事・育児は女性の性別役割分業意識を変化させることが明示されました。これらの研究結果を踏まえ、今回の調査では、女性だけではなく、中国の若年男性も調査対象者にし、ワークライフバランスの実態などを検証することで、男女比較に関する知見が期待できると思います。

（お茶の水女子大学 基幹研究院人間科学系 石井クンツ昌子）

## **Young Chinese's Gender Role Attitudes and the Current State of Work-life Balance**

**TIAN Yuan**

The purpose of this survey was to investigate the relationship between the change of young Chinese's consciousness of gender roles & division of labor and the life events, and to understand the current state of their work-life balance. The questions of the interview revolved around the genesis of the consciousness of division of labor in the past, the current division of childcare, and the distribution of family and career in the future. We centered on married and educated young males and females, and conducted the survey in the cities of three different city-size hierarchies in China: Beijing, Jinan and Weifang.